



- 2 エッセイ／“おかね”を語る
お金の家族 漫画家 久住昌之
- 4 インタビュー／扉を開く
羽生善治 将棋棋士
「この一手」を決断する思考のプロセス
- 9 地域の底力——山形県鶴岡市
山形県鶴岡市の未来を担うのは受け継がれてきた豊かな食文化
- 16 対談／守・破・創
宮部みゆき 小説家
黒田東彦 日本銀行総裁
小説は、読まれて、受け取る人がいてこそ、完成する
- 22 貨幣の世界——③ [形 その2]
古代から近世の東アジア 後編
- 24 FOCUS → BOJ ⑱ 「金融広報中央委員会」の仕事
全国規模の調査とイベントで
「金融リテラシー」の向上に取り組む

日本銀行のレポートから
- 28 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2016年7月—
- 30 「地域経済報告」(さくらレポート) —2016年7月—
地域の視点「各地域における消費関連企業の販売動向と販売戦略・価格設定行動」
- 34 トピックス
金融高度化セミナー(再チャレンジ支援)を開催ほか

表紙のことは



日本銀行大分支店は、太平洋戦争末期の昭和二十年（一九四五）七月に、事務所として設立されました。その後、大分県出身の第一八代一萬田総裁就任後の昭和二十三年（一九四八）二月、支店に昇格しました。

初代の大分支店の建物は、大分駅前にある当時大分銀行が所有していたビルを、日本銀行が買い上げたものでした。表紙の現店舗は、昭和四十五年（一九七〇）十月、新築移転された二代目となります。建物が老朽化していたほか、大分県経済の発展に伴う銀行券の受払い規模の拡大により金庫が手狭となっていたこと等から、長浜町に移転しました。

外装はタイル張り、ブロンズ（茶色系）の色調で統一し、中央銀行の建物として風格と重厚さに配慮して建てられました。大分支店は、大分の街に溶け込みながら、これからも地元経済を支え続けていきます。